

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-イ	沖縄の歴史と景観に配慮した千年悠久のまちづくり	施策	①沖縄固有の景観・風景・風土を重視した魅力的な景観形成
			施策の小項目名	○風景づくりの推進
主な取組	沖縄らしい風景づくり支援事業（景観行政の推進）		対応する成果指標	景観アセスメント数（累計）
施策の方向	・風景づくりの主体である市町村の景観行政団体への移行促進や地域住民が主導的役割を担う風景づくりの推進体制の構築を促進するとともに、市町村間連携による広域的な風景づくりに取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
シンポジウムを開催し、有識者による基調講演やパネルディスカッション等を通して風景づくりに関する県民の意識の向上や知識の普及を図る。	県,市町村	景観行政団体移行促進、景観計画策定等支援		
		景観まちづくりシンポジウム参加者数(累計)		
		200人	200人(400人)	200人(600人)
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課 【 098-866-2408 】		関連URL	http://www.fukei-okinawa.jp/

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名 沖縄らしい風景づくり支援事業				予算事業名 沖縄らしい風景づくり支援事業		
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
一括交付金 (ソフト)	委託	10,241	62,800	一括交付金 (ソフト)	委託	64,835
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
沖縄の風景づくり復帰50周年記念事業として、これからの沖縄の風景づくりを考えるシンポジウムを開催した。				県民の風景づくりに関する意識の向上を図ることを目的に、風景づくりに係るシンポジウムを開催する。		

活動指標名	景観まちづくりシンポジウム参加者数(累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	—	—	433人	200人	100.0%	順調	令和4年11月10日に、「これからの沖縄の風景づくりを考えるシンポジウム」を開催し、インターネットでの配信も実施した。

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>シンポジウムの開催にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策を考慮しインターネットでの配信も実施したことから、令和4年度のシンポジウム参加者目標値200名に対して実績値433名と、コロナ禍でも目標値を達成できた。 風景づくりに関する県民の意識の向上や知識の普及が図れ、沖縄らしい風景づくりの推進に寄与する。</p>	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和4年度の取組改善案	反映状況
	<p>新型コロナウイルス感染症対策を考慮し、シンポジウムの開催にあたっては、インターネットでの配信も実施した。</p>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	シンポジウム等の開催にあたっては、新型コロナウイルス感染症に係る、新たな生活様式に対応した適切な開催方法の検討が必要である。
① 県の制度、執行体制(内部要因)	風景づくりに関する県民の意識の向上や知識の普及を図るためには、情報発信の手法等について検討する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
⑥ 変化に対応した取組の改善	景観に対する県民意識の向上に効果的な、広報啓発に向けて、シンポジウム等の複数回の開催やインターネット配信等、適切な開催方法で取り組んでいく。
⑤ 情報発信等の強化・改善	風景づくりに関する県民の意識の向上や知識の普及を図るために、情報発信の手法等について景観協議会等で検討する。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-イ	沖縄の歴史と景観に配慮した千年悠久のまちづくり	施策	①沖縄固有の景観・風景・風土を重視した魅力的な景観形成
			施策の小項目名	○景観アセスメントの実施
主な取組	沖縄らしい風景づくり支援事業（公共事業における景観アセスメントの推進）		対応する成果指標	景観アセスメント数（累計）
施策の方向	・道路や沿道空間の緑化、無電柱化等に加え、都市部での公園・緑地等の配置など、景観地区の指定や景観アセスメントの実施も踏まえ、潤いのある公共空間の形成に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
良質な公共空間の創出を目的として、景観アセスメントを実施することにより、良好な景観形成を図り、沖縄らしい風景づくりに適正に反映する。	県	景観アセスメント(景観評価)システムの実施・改善		
		沖縄県景観評価委員会の開催回数(累計)		
		2回	2回(4回)	2回(6回)
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課 【 098-866-2408 】		関連URL	https://www.pref.okinawa.jp/site/doboku/toshimono/keikan/keikanhyoukasystem.html

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	沖縄らしい風景づくり支援事業			予算事業名	沖縄らしい風景づくり支援事業	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
一括交付金 (ソフト)	委託	10,241	62,800	主な財源	実施方法	当初予算額
				一括交付金 (ソフト)	委託	64,835
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
8件の公共事業を対象に景観アセスメントとして景観評価システムの運用を実施し、沖縄県景観評価委員会を2回開催した。				10件の公共事業を対象に景観アセスメントとして景観評価システムの運用を実施し、沖縄県景観評価委員会を2回開催する。		

活動指標名	沖縄県景観評価委員会の開催回数 (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	—	—	2回	2回	100.0%	順調	「沖縄県景観検討の基本方針 (H29本格運用版)」にもとづき、8件の公共事業を対象に景観アセスメントとして景観評価システムの運用を実施し、沖縄県景観評価委員会を2回開催した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

景観アセスメント (景観評価) システムの実施に係る沖縄県景観評価委員会の開催については、目標値である2回開催することができた。沖縄県独自の景観評価システムを実施することで、公共事業において景観の配慮がなされ、質の高い公共空間の創出に寄与される。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和4年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> ・景観評価システムの円滑な運用に向けて、引き続き、景観検討の前年度から事業課との連携強化を図る。 ・実務を通じて県事業担当者や県内コンサルタントの技術力向上を図るため、引き続き、有識者を交えた景観アドバイス会議 (各事業×2回程度) 等を開催する。また、景観評価システムに係る実務的な研修等の実施に継続して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観評価システムの円滑な運用に向けて、引き続き、景観検討の前年度から事業課との連携強化を図った。 ・実務を通じて県事業担当者や県内コンサルタントの技術力向上を図るため、引き続き、有識者を交えた景観アドバイス会議を合計12回開催した。また、景観評価システムに係る実務的な研修を実施した。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	景観評価システムの目的やしきみ等について、県事業担当者の知識を深化させる必要がある。	⑤ 情報発信等の強化・改善	景観評価システムに係る実務的な研修等の実施に継続して取り組む。
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	景観評価システムの対象となる事業について、予算要求事務のスケジュールに留意しつつ早い段階から事業課と連携する必要がある。	② 連携の強化・改善	景観評価システムの円滑な運用に向けて、引き続き、景観検討の前年度から事業課との連携強化を図る。
② 他の実施主体の状況 (内部要因)	県内には景観設計の十分な経験および技術力をもつコンサルタントが少なく、景観評価システムを円滑に運用するには、県内技術者の育成が不可欠である。	⑤ 情報発信等の強化・改善	実務を通じて県事業担当者や県内コンサルタントの技術力向上を図るため、有識者を交えた景観アドバイス会議を開催し、景観評価システムに係る実務的な研修等の実施に継続して取り組む。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-イ	沖縄の歴史と景観に配慮した千年悠久のまちづくり	施策	①沖縄固有の景観・風景・風土を重視した魅力的な景観形成
			施策の小項目名	○風景・まちなみの再生を先導し専門的な知識を有する人材の育成等
主な取組	沖縄らしい風景づくり支援事業（景観形成に係る人材の育成）		対応する成果指標	景観アセスメント数（累計）
施策の方向	・沖縄らしい風景づくりや景観形成に向けて、風景・まちなみの再生を先導し専門的な知識を有する人材の育成や技術開発に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
沖縄らしい景観・風景を次世代に守り継ぎ、風景づくりに貢献できる人材を育成するため、地域住民を対象とした「風景づくりサポーターおよび地域景観リーダー」や景観行政担当職員を対象とした「景観行政コーディネーター」を育成する。	県	景観形成人材育成(地域人材及び専門家の育成)		
		講習会等参加者数(累計)		
		300人	300人(600人)	300人(900人)
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課 【 098-866-2408 】		関連URL	http://www.fukei-okinawa.jp/

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名 沖縄らしい風景づくり支援事業				予算事業名 沖縄らしい風景づくり支援事業		
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
一括交付金 (ソフト)	委託	10,241	62,800	一括交付金 (ソフト)	委託	64,835
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
6地区において、地域住民を対象とした地域人材の育成に取り組んだほか、景観行政担当職員を対象とした研修会を実施した。				モデル的地区を含む4地区において、地域住民を対象とした地域人材の育成に取り組み、景観行政担当職員を対象とした研修会を実施する。		

活動指標名	講習会等参加者数 (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	442人	0人	422人	300人	100.0%	順調	6地区において、地域住民を対象とした地域人材の育成に取り組むとともに、景観行政担当職員を対象とした研修会を実施した。

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>地域住民の景観への関心を高めるため、地元市町村および6つの実施地区と連携を図りながら各種研修や人材育成を実施し、参加者数は、目標値300人に対し422人と、目標値を達成した。 沖縄らしい景観・風景を次世代に守り継ぎ、「時間とともにその価値が高まる地域づくり」の促進に寄与した。</p>	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和4年度の取組改善案	反映状況
<p>地域住民の景観への関心を高めるため、地元市町村および実施地区と連携を図りながら、各地区でコロナ禍でも取組可能な景観形成に向けた活動やワークショップ等を開催し、地域景観協議会設立に向け引き続き取り組んでいく。</p>	<p>地域住民の景観への関心を高めるため、地元市町村および実施地区と連携を図りながら、各地区でコロナ禍でも取組可能な景観形成に向けた活動やワークショップ、各種研修を開催した。</p>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
① 県の制度、執行体制(内部要因)	風景・まちなみづくりに対する地域住民の関心を高めるには、長期的な視点から継続的な取組が求められる。
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	風景づくりに係る人材育成後、育成された人材が活動を実施できる体制が整備されていない。

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
② 連携の強化・改善	地域住民の景観への関心を高めるため、地元市町村および実施地区と連携を図りながら、引き続き景観形成に向けた活動やワークショップ等を開催し、継続的に人材育成に取り組んでいく。
⑤ 情報発信等の強化・改善	地域住民の景観への関心を高めるため、地元市町村および実施地区と連携を図りながら、地域景観協議会設立に向け引き続き取り組んでいく。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-イ	沖縄の歴史と景観に配慮した千年悠久のまちづくり	施策	②世界遺産の環境整備と歴史的景観を活用したまちづくりの促進
			施策の小項目名	○地域の歴史・文化等の特性を生かしたまちづくり
主な取組	古民家の保全・継承に関する情報提供		対応する成果指標	歴史景観と調和する都市公園の供用面積
施策の方向	・古民家等の保全に向けた技術者の育成や資材の確保等により、古民家や御嶽・拝所・石垣・赤瓦など各地域の景観資源の保全等に努め、地域の歴史・文化等の特性を生かしたまちづくりに取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画			
		活動指標(アウトプット)			
		R4	R5	R6	
建築関係技術者向けの講演会で、沖縄の伝統木造住宅(古民家)に係る講演を実施、古民家の再生・活用の普及・啓発を行う。	県	技術者育成支援事業での周知活動			
		講習会の開催回数(累計)			
		1回	1回(2回)	1回(3回)	
担当部課【連絡先】	土木建築部住宅課		【 098-866-2418 】	関連URL	—

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	地域住宅施策推進事業			予算事業名	地域住宅施策推進事業	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
内閣府計上	委託	0	5,183	内閣府計上	委託	5,700
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		

様式1 (主な取組)

県内建築技術者の技術向上を目的として、技術者向け講習会・講演会を開催した。

県内建築技術者の技術向上を目的として、技術者向け講習会・講演会を開催した。

活動指標名	講習会の開催回数 (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	1回	0回	1回	1回	100.0%	順調	①「県内木造建築物の空き家再生」や「沖縄県の気候風土適応住宅」をテーマとする技術講習会を開催した。 ②県内の建築技術向上や建築人材獲得を目的とした建築講演会を開催した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

全体受講者は275人（来場者174人、Web受講101人）となり、多くの建築技術者（建築士、建設会社、学生など）が受講した。住宅建築に係る技術者講習会の開催の令和4年度実績は1回となり、目標値に達したことから、取組は順調と判断した。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和4年度の取組改善案	反映状況
	①受注者との協議により、「伝統木造建築物と空き家再生および景観」を講習会のテーマとし、建築技術者の関心の高い講習内容とした。 ②講習会では、ソーシャルディスタンスを保ちながら座席を用意し、また、Webによる同時受講としたことでコロナ対策を図った。

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	いかに多くの建築技術者が受講し、伝統的建築物の技術向上を図ることが課題である。特に若年技術者の受講者数を増やしていくことが重要である。

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
② 連携の強化・改善	「伝統木造建築物」や「空き家再生」をテーマに関心の高い講習会とし、多くの建築技術者が受講した。令和5年度は、開催時期の見直しにより受講者数を増やしていく。

様式1 (主な取組)

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-イ	沖縄の歴史と景観に配慮した千年悠久のまちづくり	施策	②世界遺産の環境整備と歴史的景観を活用したまちづくりの促進
			施策の小項目名	○文化的な歴史遺産や風土等と調和し、自然と共生する憩いの場となる都市公園の整備
主な取組	都市公園における風景づくり事業		対応する成果指標	歴史景観と調和する都市公園の供用面積
施策の方向	・本県の文化的な歴史遺産や風土等と調和し、自然と共生する憩いの場となる都市公園の整備に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画			
		活動指標(アウトプット)			
		R4	R5	R6	
沖縄らしい文化的な歴史資産、風土および自然と共生する憩いの場を創出するため、都市公園の整備を行う。	,県	歴史景観と調和する都市公園の整備推進			
		中城公園、浦添大公園、首里城公園の供用面積(累計)			
		0.0ha(35.7ha)	2.7ha(38.4ha)	3.9ha(42.3ha)	
担当部課【連絡先】	土木建築部都市公園課		【 098-866-2035 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)		
予算事業名	国直轄				予算事業名	国直轄	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額		R5年度		
国直轄	—	—	—		主な財源	実施方法	当初予算額
令和4年度活動内容					令和5年度活動計画		
国は、国営沖縄記念公園首里城地区において火災により焼損した施設の復旧・復興に取り組んだ。					国は、国営沖縄記念公園首里城地区において火災により焼損した施設の復旧・復興に取り組む。		
予算事業名	公園費（社会資本交付金）				予算事業名	公園費（社会資本交付金）	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額		R5年度		
内閣府計上	直接実施	861,473	510,317		主な財源	実施方法	当初予算額
内閣府計上	直接実施				内閣府計上	直接実施	777,639
令和4年度活動内容					令和5年度活動計画		
中城公園においては園路広場整備、用地取得等、浦添大公園においては園路整備、遊具改修等、首里城公園においては文化財調査等を行った。					中城公園においては園路整備、用地取得等、浦添大公園においては駐車場整備、遊具改修等、首里城公園においては文化財調査、園路整備等を行う。		
活動指標名	中城公園、浦添大公園、首里城公園の供用面積（累計）		R4年度			進捗状況	活動概要
実績値	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	35.7ha	35.7ha	35.7ha	0.0ha (35.7ha)	100.0%	順調	沖縄らしい文化的な歴史資産、風土および自然と共生する憩いの場を創出するため、中城公園においては園路整備、用地取得等、浦添大公園においては園路整備、遊具改修等、首里城公園においては文化財調査等を行った。

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>中城公園、浦添大公園、首里城公園の公園整備において、用地取得済みの区域においては、園路広場等、公園利用に供する施設を整備し、供用開始に向け着実に進捗している。また、公園全体の施設整備も概ね順調に進捗しており、利用者へのサービス向上が図られている。</p>	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和4年度の取組改善案	反映状況
<p>都市公園における風景づくり事業については、引き続き公園用地取得に向け、地権者等の同意が得られるように強く交渉を続けるとともに、市町村を通じて地元関係者等の協力を得ながら事業を推進する。また、整備の効果が早期に発現できるような部分的な供用開始に取り組む。 発掘調査を担当する関係機関と連絡調整を密に行い、文化財に対して適切な対応を図りながら、事業を推進していく。</p>	<p>都市公園における風景づくり事業については、引き続き公園用地取得に向け、地権者等の同意が得られるように強く交渉を続けるとともに、市町村を通じて地元関係者等の協力を得ながら事業を推進する。また、整備の効果が早期に発現できるような部分的な供用開始に取り組めるよう、整備を行った。 発掘調査については関係機関との連絡調整を密に行ったことで、計画通り調査が行われている。</p>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	公園用地の取得に長時間を要することから、地権者等の同意が早期に得られるよう、市町村を通じて地元関係者等の協力を得ながら事業を推進する必要がある。
⑦ その他(改善余地の検証等)	整備の効果を早期に発現させるため、部分的な供用開始も含めた効率的かつ効果的な整備に努める必要がある。
⑦ その他(改善余地の検証等)	発掘調査を並行しながら整備を進める箇所については、関係機関との連携が必要である。

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
② 連携の強化・改善	公園用地取得に向け、地権者等の同意が得られるよう粘り強く交渉を続けるとともに、市町村を通じて地元関係者等の協力を得ながら事業を推進する。
④ 創意工夫による取組の改善(合理化・効率化)	整備の効果が早期に発現できるような部分的な供用開始に取り組む。
② 連携の強化・改善	発掘調査を担当する関係機関と連絡調整を密に行い、文化財に対して適切な対応を図りながら、事業を推進していく。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-イ	沖縄の歴史と景観に配慮した千年悠久のまちづくり	施策	③沖縄固有の景観資源の保全・継承
			施策の小項目名	○環境保全や景観に配慮した河川や海岸の整備
主な取組	自然環境に配慮した河川の整備		対応する成果指標	無電柱化整備総延長
施策の方向	・河川や海岸等の水辺環境においては、水と緑の貴重な空間や憩いの場としてのニーズが高まっていることに加え、景観を構成する重要な要素であることから、環境保全や景観に配慮した河川や海岸の整備に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画			
		活動指標(アウトプット)			
		R4	R5	R6	
護岸に自然石を使用する等、環境・景観に配慮した多自然川づくりにより、河川の水辺環境の保全・再生を図る。	県	自然石等を用いた河川の整備			
		整備延長(累計)			
		0.3km	0.3km(0.6km)	0.3km(0.9km)	
担当部課【連絡先】	土木建築部河川課		【 098-866-2404 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	沖縄振興公共投資交付金(河川)等			予算事業名	沖縄振興公共投資交付金(河川)等	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
一括交付金 (ハード)	直接実施	2,480,000	2,586,000	主な財源	実施方法	当初予算額
				一括交付金 (ハード)	直接実施	1,593,427
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
護岸に自然石を使用する等、環境・景観に配慮した多自然川づくりにより、河川の水辺環境の保全・再生を図った。				自然石等を用いた河川護岸の整備や景観・環境に配慮した多自然川づくりにより、河川の水辺環境の保全・再生に取り組む。		

活動指標名	整備延長(累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	0km	0.2km	0.3km	0.3km	100.0%	順調	安里川ほか17河川にて、環境・景観に配慮した多自然川づくりにむけた用地補償および護岸工事等を行った。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

安里川ほか17河川にて、環境・景観に配慮した多自然川づくりにむけた用地補償および護岸工事等を行った。令和4年度の整備延長実績は0.3kmで、単年度・累計の整備延長ともに目標値と同等となったことから、取組は順調と判断した。なお、整備開始以降の累計整備延長は4.59kmとなっている。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和4年度の取組改善案	反映状況
河川事業について、地元住民の理解を深め、協力を得るため、引き続き事業説明会等を開催する。	地元住民の理解と協力を得て事業が円滑に行われるよう、昨年度に引き続き、地元市町村および自治会への事業説明会を実施し、長期間に及ぶ河川整備事業に対する理解の深化を図った。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	河川整備は、下流側から整備するという事業の特殊性から、事業効果をあげるには多大な期間を要する。	⑤ 情報発信等の強化・改善	河川事業は多大な期間を要することから、事業説明会等で事業説明および効果発現状況を説明することで、事業の効果を実感してもらい事業への協力を得ることで進捗を図る。
④ 社会・経済情勢の変化 (外部環境の変化)	米軍提供施設内の河川整備や用地取得の難航等により、事業進捗の遅れが生じている。	⑤ 情報発信等の強化・改善	引き続き、関係機関 (沖縄防衛局、現地米軍) および地権者との調整を密に行い、事業の進捗を図る。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-イ	沖縄の歴史と景観に配慮した千年悠久のまちづくり	施策	③沖縄固有の景観資源の保全・継承
			施策の小項目名	○環境保全や景観に配慮した河川や海岸の整備
主な取組	自然環境に配慮した海岸の整備		対応する成果指標	無電柱化整備総延長
施策の方向	<p>・河川や海岸等の水辺環境においては、水と緑の貴重な空間や憩いの場としてのニーズが高まっていることに加え、景観を構成する重要な要素であることから、環境保全や景観に配慮した河川や海岸の整備に取り組みます。</p>			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画			
		活動指標(アウトプット)			
		R4	R5	R6	
自然環境に配慮しながら、地域の特性に応じた海岸保全施設を整備する。	県	自然環境に配慮し地域の特性に応じた海岸保全施設の整備			
		整備延長(累計)			
		0.2km	0.3km(0.5km)	0.3km(0.8km)	
担当部課【連絡先】	土木建築部海岸防災課		【 098-866-2410 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	港湾海岸環境整備事業費			予算事業名	海岸メンテナンス事業費	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
一括交付金 (ハード)	直接実施	527,799	315,141	主な財源	実施方法	当初予算額
令和4年度活動内容				内閣府計上	直接実施	220,000
金武湾港海岸（ギンバル地区）において養浜工（L=約100m）等の整備を実施し、令和4年9月に当該海岸を供用開始した。				令和5年度活動計画		
予算事業名	港湾海岸事業費			伊佐海岸、兼久海岸において、護岸工（計：L=80m）を実施し、自然環境に配慮し地域の特性に応じた海岸保全施設の整備に取り組む。		
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	予算事業名	海岸事業費	
一括交付金 (ハード)	直接実施	30,605	71,000	R5年度		
令和4年度活動内容				主な財源	実施方法	当初予算額
中城湾港海岸（豊原地区）等において、護岸工（L=約70m）を実施し、自然環境に配慮し地域の特性に応じた海岸保全施設の整備に取り組んだ。				一括交付金 (ハード)	直接実施	119,203
令和5年度活動計画				令和5年度活動計画		
				川平海岸等において、護岸工（L=約70m）等を実施し、自然環境に配慮し地域の特性に応じた海岸保全施設の整備に取り組む。		

活動指標名	整備延長（累計）		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	0.3km	0.3km	0.2km	0.2km	100.0%	順調	金武湾港海岸（ギンバル地区）や中城湾港海岸（豊原地区）等において、自然環境に配慮し地域の特性に応じた海岸保全施設の整備（L=約0.2km）を実施した。

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>令和4年度の整備延長については、目標値(L=0.2km)を達成したことから(実績値L=0.2km)、取組の進捗は順調と判断した。 金武湾港海岸(ギンバル地区)の供用開始を行ったことで、県民および観光客が快適に利用できる自然景観と調和した沖縄らしい海岸整備を推進できた。</p>	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和4年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> 金武町が実施する海浜公園整備事業と海岸環境整備事業に遅れが生じないように、金武町と定期的な工程管理等を実施する。 海岸事業においては、自然豊かな海岸を有する地域で事業を実施する際の事前環境調査、事業中の環境調査および関係者との調整結果から、必要とされる対策を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 金武町と定期的な工程管理等を実施することで、金武湾港海岸(ギンバル地区)の供用開始を令和4年度に行うことができた。 環境調査および関係機関調整等を実施し、自然環境に配慮し地域の特性に応じた海岸保全施設の整備に取り組んだ。

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	自然豊かな海岸を有する地域では、事業を実施する海岸でそれぞれ異なる特性を持った環境および周辺に生息する生物へ配慮した計画策定等が必要であり、地域のニーズに合った海岸整備が求められる。

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
② 連携の強化・改善	自然豊かな海岸を有する地域で事業を実施する際の事前環境調査、事業中の環境調査および関係者との調整結果から、必要とされる対策を実施する。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-イ	沖縄の歴史と景観に配慮した千年悠久のまちづくり	施策	③沖縄固有の景観資源の保全・継承
			施策の小項目名	○無電柱化等の推進
主な取組	無電柱化推進事業		対応する成果指標	無電柱化整備総延長
施策の方向	・都市景観の向上については、防災面での機能も併せた電線共同溝による無電柱化等を推進し、良好な景観の創出に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画			
		活動指標(アウトプット)			
		R4	R5	R6	
緊急輸送路や避難路確保の防災対策、安全で快適な通行空間の確保、都市景観の向上、観光振興を目的とし、電線類を地中化するため電線共同溝を整備する。	県	県管理道路における無電柱化の推進			
		県管理道路の無電柱化整備総延長(累計)			
		0.5km(79.3km)	1.5km(80.8km)	1.5km(82.3km)	
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課		【 098-866-2665 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名		無電柱化推進事業等(県)		予算事業名		無電柱化推進事業等(県)
主な財源	実施方法	R3年度	R4年度	R5年度		
		決算額	決算見込額	主な財源	実施方法	当初予算額
一括交付金 (ハード)	直接実施	737,174	515,784	一括交付金 (ハード)	直接実施	402,404
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
無電柱化を推進するため、県管理道路において電線共同溝1.0km整備した。				無電柱化を推進するため、県管理道路において電線共同溝1.5km整備する。		

活動指標名	県管理道路の無電柱化整備総延長 (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	1.3km	1.5km	1.0km	0.5km (79.3km)	100.0%	順調	県管理道路における無電柱化整備総延長について、令和4年度は約1.0kmを整備した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

県管理道路における無電柱化整備総延長について、令和4年度は目標値を上回る約1.0kmを整備したことから、取組は順調であると判断した。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和4年度の取組改善案	反映状況
「沖縄ブロック無電柱化推進協議会」にて、関係機関(国、県、市町村、電線管理者)と情報共有を図り、無電柱化の推進に連携して取り組む。	「沖縄ブロック無電柱化推進協議会」に参加し、関係機関(国、県、市町村、電線管理者)と意見交換等を行った。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	電線共同溝の整備にあたり、関係機関等との調整に時間を要する。	② 連携の強化・改善	関係機関との調整が円滑に整うよう、前広な情報共有するなど、整備の計画的な進行を図る。